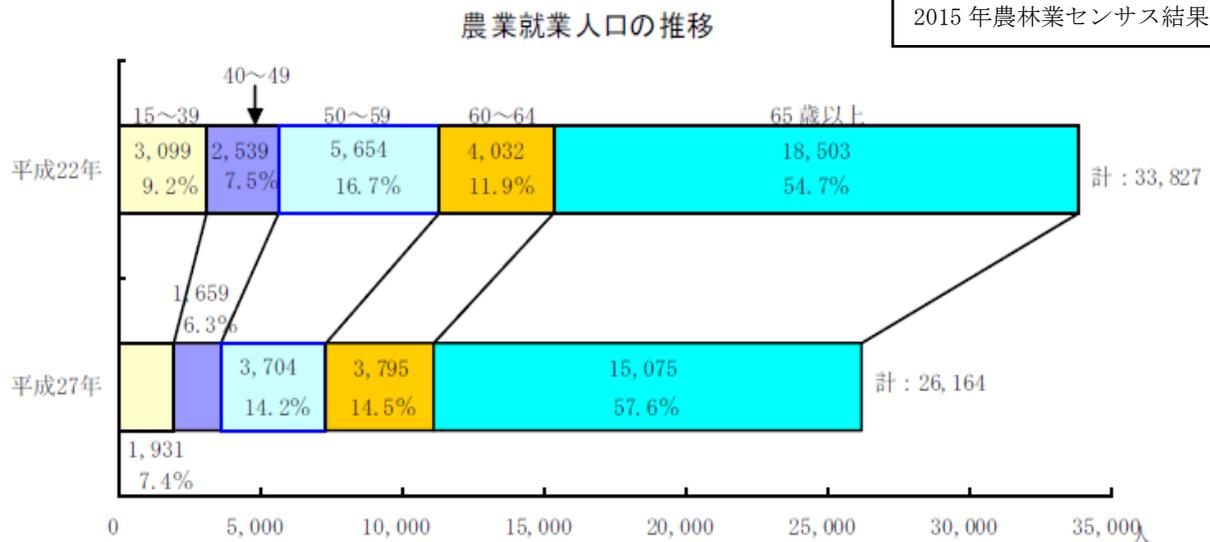


山間の農村に賑わいを！ ～自然豊かな地で農業を始める～

○自治体における課題

農業従事者の高齢化の進行に伴い、長期的に農家数が減少していく傾向にある中、担い手の減少が急速に進行している。

佐賀県内農家の農業就業人口は 26,164 人で5年前に比べ 7,663 人(22.7%)減少した。また、農業就業人口の平均年齢は 64.9 歳となった。



特に、山間部での担い手不足は深刻であり、今後も高齢化や後継者不足などによる耕作放棄地が拡大することが懸念される。

○イタリア トスカーナ州の状況

1970年代まで、田舎の農家は非常に貧しく、若者は町を出ていった。そして、高齢化が進み、担い手不足が大きな問題となった。

その状況をどうにかしなければならないということで、1980年代に、農家の人達が自分達で持っている先祖代々の家を開放し、観光客を受け入れることで所得を増やそうとした取り組みがアグリツーリズムである。

トスカーナ州のアグリツーリズムは、その土地で採れたものだけを食事で提供するという厳しい決まりがある。

この厳しい決まりを守り、アグリツーリズムを始めたことにより、「トスカーナのアグリツーリズムは、その土地でしか味わえないこだわりがあり、本当のアグリツーリズムだ」「本当のイタリア人の生活を体験できる」と口コミで広がり、世界中から観光客が来るようになった。そして、町に仕事と雇用が生まれ、町から出て行った若者達が戻ってきた。

※アグリツーリズム (Agriturismo)

農業 (Agriculture) + 観光 (Tourismo) からできた造語で、いわゆる農園滞在。農作業を手伝うというスタイルではなく、「都会の喧騒から離れ、田舎を楽しむ」というスタイル。

○佐賀市山間部の状況 (現状)

本市農業の担い手不足は平地よりも山間部の方がより深刻である。後継者はすでに家を出ていている農家も多いため、新たに移住して農業を始める人を支援したい。

空き農地はあるが、山間部のため日当たり等の条件が良い土地は限られる。また、土地柄かも知れないが、よそ者、知らない人には貸したくないという農家も多い。

更に問題となるのは家である。そもそも山間部にはアパートや貸家が非常に少ない。また、空き家はあっても、長い間誰も住んでおらず、老朽化が激しく、大きな改修をしないと住むことができないといった家が多い。

このような状況から、もともと農地と家の心配が要らなかったトスカーナ州とは違い、本市山間部で新規就農するには農地と家の問題が非常に大きな課題である。

○課題の検証

トスカーナ州の状況

本市と同じく、高齢化等により農業の担い手が不足していた。

しかし ↓

その土地で就農するにあたり、先祖代々の農地と家があった。

よって ↓

子や孫が地元に戻り、その農地と家を活用し、農業 + 観光 (アグリツーリズム) を始めた。

すると ↓

世界中から観光客が来て、所得向上 & 仕事が生まれた。

農地と家があったので、
その地に子や孫が戻ってきて、
農業を主とした経営を始めた。

佐賀市山間部の状況 (現状)

高齢化等により農業の担い手が不足しているため、新たに移住し、新規就農して欲しい。

しかし ↓

山間部で好条件の農地を借りる・購入することは難しい。

さらに ↓

すぐに住むことができる住居が非常に少ない。

よって ↓

新たに山間部に移住し、就農することは難しい。

就農希望者が自分で
農地と家を準備することが難しい。

しかしながら

全国には農業に興味がある、就農したいと思っている人は存在する

全国で開催される「新・農業人フェア: (株)リクルートジョブズ主催」や「マイナビ就農FEST: (株)マイナビ主催」など、就農希望者が集まる就農相談会には、毎回、多くの来場者があり、農業を始めるにあたっての様々な相談をしている。

来場者は、農業の経験が無く、作物や就農地を決めていない人が多い。また、現在の居住地にこだわらず、全国の情報を集めている人も多い。

農業を始めたいと考える人に、就農地として佐賀市を選んでもらうには何が必要か。

○政策提案

農地(ハウス)と住居を準備する

【農地(ハウス)と住居の賃貸】

※このハウスは、ビニールハウスのことをいう

空き農地があっても、よそから来た者や知らない者には貸してくれない。

山間部には、すぐに住むことができる(大きな改修が必要ない)空き家やアパートなどの借家が極めて少ない。

就農したくても農地が無い

移住したくても住む家が無い

JAと協力し、ハウスと住居を準備し、新規就農者へ貸し出す。

・農地の斡旋だけでなく、なぜハウスを建てる必要があるのか？

山間部では、米・麦を作るような平坦で広い土地を見つけることは非常に難しく、狭い土地で就農するには園芸作物が良い。また、露地栽培ではかなり広い土地で栽培しなければ収益を上げることができないが、ハウス栽培であれば狭い土地でも高収益が期待できる。

⇒農地斡旋と合わせてハウス建設を請け負うことを提案

・住居まで準備せず、通い農業でもよいのではないのか？

少し離れた町中であればアパートもあるが、山間部での就農を希望する方は、自然の中で生活したいという希望を持っている方が多い。多少の不便を覚悟の上で、山間部での就農を目指していることを勧案すると、住む家が準備されていることは大きなメリットである。また、通い農業となると、地元との交流は生活に密着したものとならないため、集落維持への貢献は少ないと思われる。

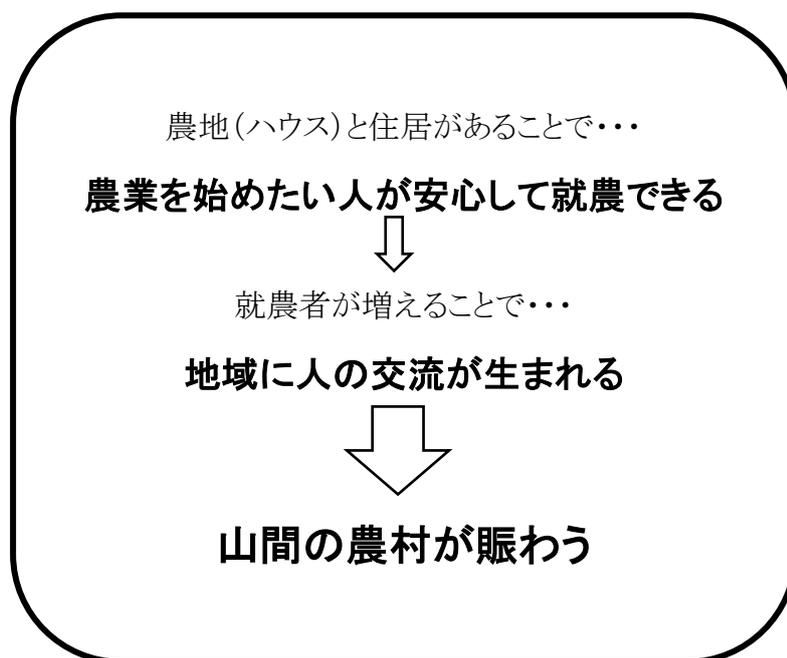
⇒住居の準備を提案

【農地(ハウス)と住居の賃貸】 のメリット

新規就農者は

- ・ 初期投資の負担が大きいハウスを自分自身で建設することなく営農を開始することができ、経営が安定しない時期の出費を抑えることができる。
- ・ 家の建設・改修や購入という大きな出費をすることがない、賃貸住宅で生活の安定を図ることができる。
- ・ ハウスと家の賃貸期間中に、将来の自分自身のハウスや家の購入資金を貯めることができる。

○まとめ



ただし、すぐに成果は出ない。ハウスや住居の建設費等、投資した事業費は賃貸料で回収できないかもしれない。

しかし…

佐賀市の農地・農産物を守る！ 将来の佐賀市農業への投資である！